

中野地方の弥生文化

中野市教育委員会 柳生 俊樹

発表要旨

本発表では、柳沢遺跡における銅戈・銅鐸埋納の背景を考える手がかりとして、青銅器祭祀の担い手である栗林式土器文化・社会の中野市域での様相を紹介したい。

北信地方における弥生時代遺跡

これまでの発掘調査によって、北信地方では千曲川に沿って多くの弥生時代遺跡が存在することがわかってきた（図1）。そのうち栗林式期の遺跡は、継続期間が土器型式で1型式あるいは2型式分にとどまるものと、全期間にわたるものに大別できる（笹澤2012）。後者には、飯山市の上野遺跡、長野市松原遺跡や中俣遺跡が該当し、拠点集落に相当すると考えられる（表紙裏地図）。

栗林遺跡

中野市域では、表1に示すように、栗林遺跡が他に比べて長期にわたっており、拠点集落の候補と言えよう。ただ、これまでの調査は小規模なものが多く、松原遺跡のように集落の様相が明瞭にできていない（図2）。それでも、拠点集落らしさを示すものとして、環濠の可能性のある大溝や、武器形石製品の集中を挙げることができる。

（大溝）平成3年の調査で検出。幅4m、検出面からの深さ1.1mを測る（図4）。不明瞭ながら、方位から見て、遺跡中央に位置する集落を囲む可能性がある。

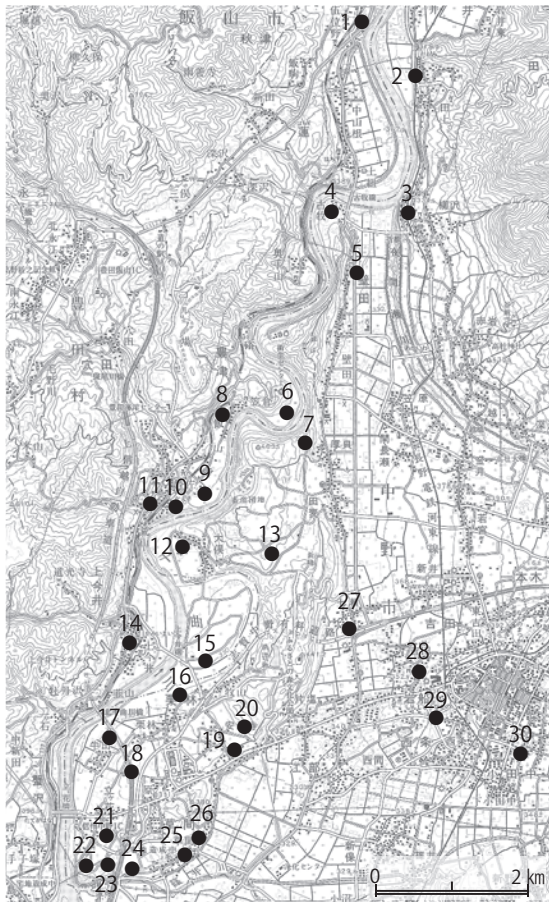
（武器形石製品）銅戈を忠実に模した銅戈形石製品1点、変形の進んだ変形銅戈形石製品2点と有孔石製品1点が出土している（図5）。出土地点は、比較的狭い範囲に集中しているようにも見える（図2）

墓制が示す地域的なまとまり

栗林式土器文化・社会の墓制として、木棺墓、土坑墓、礫床木棺墓がある（図6）。これらは柳沢遺跡を境にして、下流（飯山市域）では木棺墓や土坑墓が優勢であるが、上流（中野・長野市域）では礫床木棺墓が優勢である（表2）。墓制の採用を集団帰属意識の反映と見れば、柳沢周辺を境界とした地域的なまとまりが見えてくる。

柳沢青銅器に関わる地域をめぐって

北の境が柳沢周辺であるとして、南の境はどこに置けるのだろうか。長野市北部には、拠点集落とされる中俣遺跡があるので、おおよそ現在の中野市域が善光寺平北部におけるひとつの地域的なまとまりと見るのも不可能ではない。その場合、問題になるのは当該地域における拠点集落である。有力な候補である栗林遺跡の調査・研究が鍵となろう。



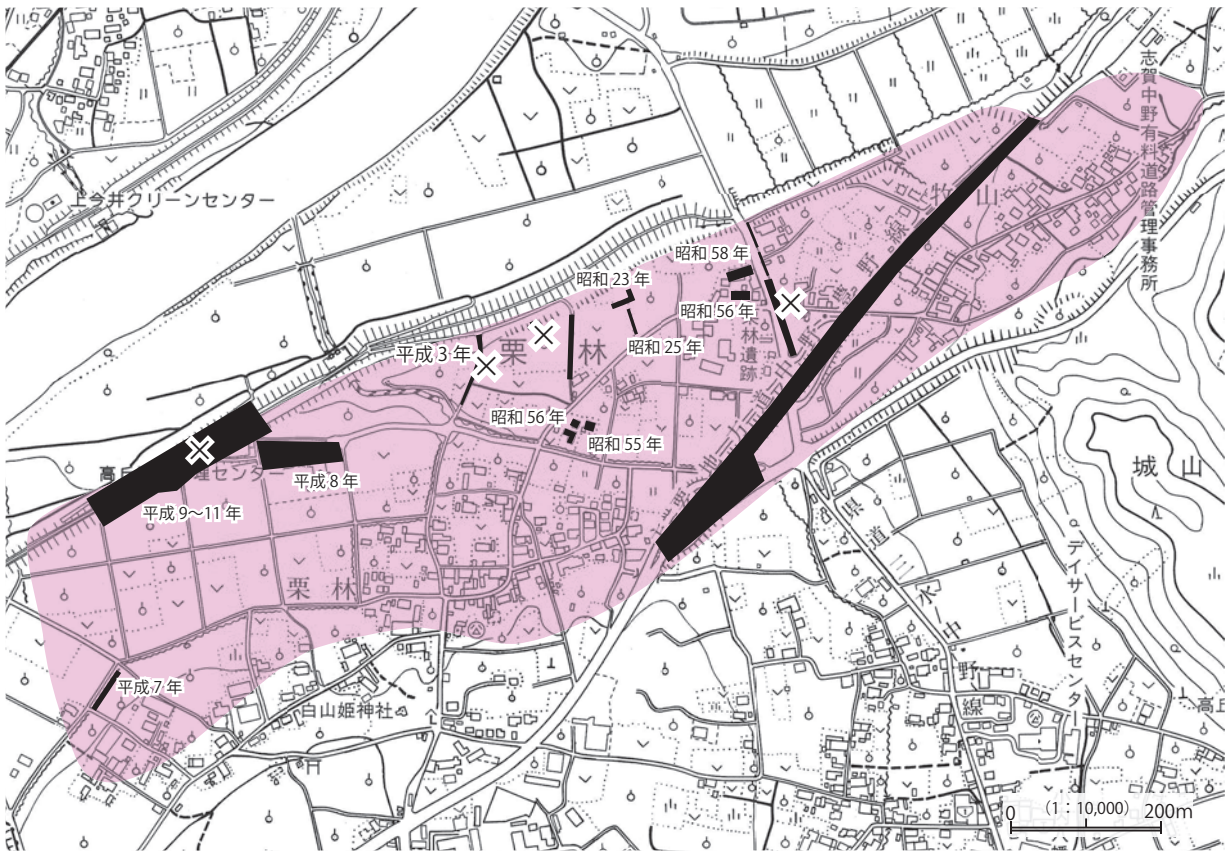
第1図 弥生時代遺跡分布図

| | 遺跡名 | 中期 | 後期 |
|----|-------|----|----|
| 1 | 田草川尻 | ○ | ○ |
| 2 | 田上 | ○ | ○ |
| 3 | 柳沢 | ○ | ○ |
| 4 | 古牧 | | ○ |
| 5 | 壁田 | ○ | ○ |
| 6 | 琵琶島 | ○ | ○ |
| 7 | 陣場 | ○ | ○ |
| 8 | 笠倉 | ○ | ○ |
| 9 | 川久保 | ○ | |
| 10 | 千田 | | ○ |
| 11 | 南大洞 | ○ | ○ |
| 12 | 宮反 | | ○ |
| 13 | 姥ヶ沢 | ○ | |
| 14 | 山根 | ○ | ○ |
| 15 | 南大原 | ○ | ○ |
| 16 | 栗林 | ○ | ○ |
| 17 | 牛出 | ○ | ○ |
| 18 | 牛出竈跡 | ○ | |
| 19 | 安源寺 | ○ | ○ |
| 20 | 安源寺城跡 | ○ | ○ |

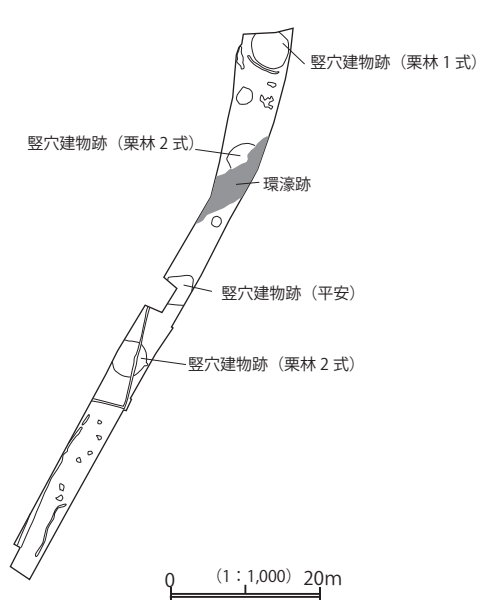
| | 遺跡名 | 中期 | 後期 |
|----|-------|----|----|
| 21 | 立ヶ花表 | | ○ |
| 22 | がまん淵 | | ○ |
| 23 | 立ヶ花城跡 | | ○ |
| 24 | 島軒割 | | ○ |
| 25 | 草間中組 | ○ | |
| 26 | 高屋敷 | ○ | ○ |
| 27 | 七瀬 | ○ | ○ |
| 28 | 吉田宮脇 | | ○ |
| 29 | 西条岩船 | | ○ |
| 30 | 上小田中 | ○ | ○ |

表1 主要遺跡

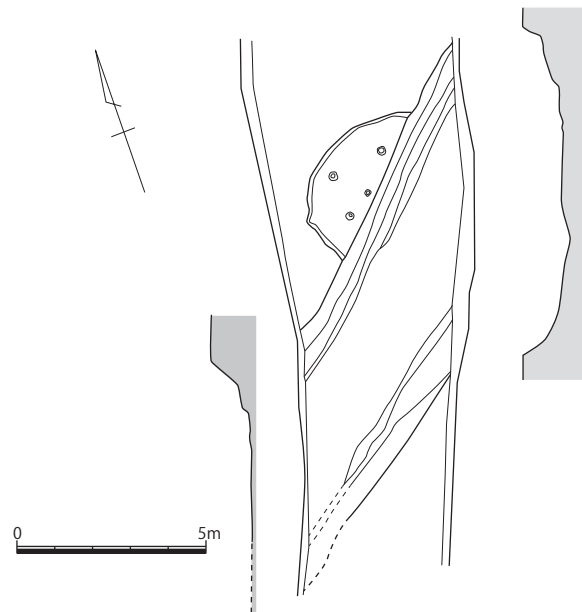
| 遺跡名 | 土器編年 (石川2002) | | | | 主な遺構 | 特記遺物 |
|-----|---------------|------|------|-----|-------------------------------------|-----------------------|
| | 栗林1 | 栗林2古 | 栗林2新 | 栗林3 | | |
| 柳沢 | | ○ | | | 竪穴住居跡、礫床木棺墓、青銅器埋納坑、水田跡 | 銅戈、銅鐸、管玉 |
| 琵琶島 | ○ | | | | 竪穴住居跡、周溝（平地住居？）跡、掘立柱建物跡 | |
| 笠倉 | | | | | | 武器形石製品 |
| 川久保 | | | ○ | | 土器集中 | |
| 七瀬 | | | ○ | | 竪穴住居跡、流路、堰状遺構 | 木製品 |
| 南大原 | | | ○ | | 竪穴住居跡、掘立柱建物跡、礫床木棺墓、木棺墓、鍛冶遺構？ | 鉄斧、鉄鏃、鍛冶工具類（台石、敲石、砥石） |
| 栗林 | ○ | ○ | ○ | ○ | 竪穴住居跡、平地住居跡、掘立柱建物跡、礫床木棺墓、土坑墓、木棺墓、環濠 | 武器形石製品 |



第2図 栗林遺跡の範囲と調査状況 (×=武器形石製品出土地点)



第3図 平成3年調査区

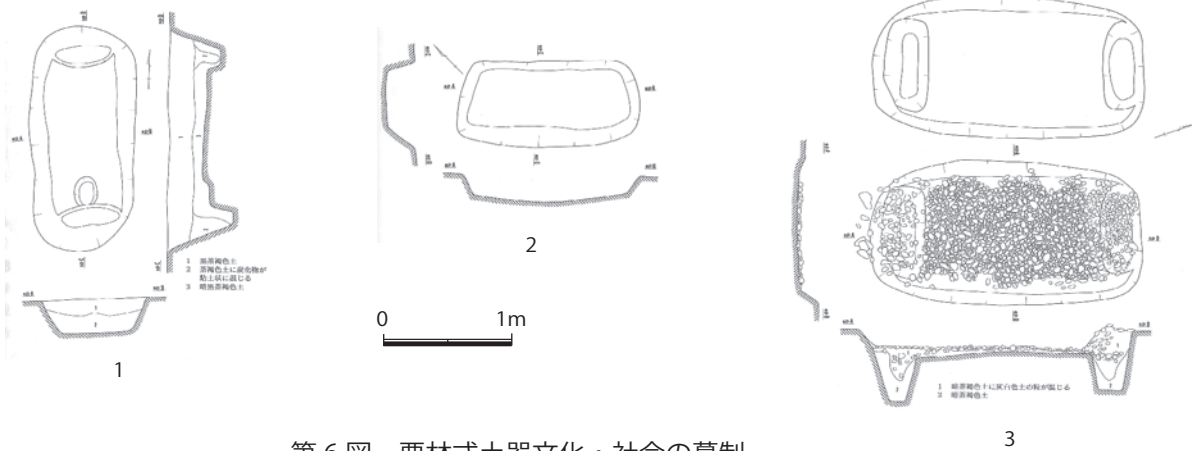


第4図 環濠跡実測図



第5図 栗林遺跡出土武器形石製品

- 1 銅戈形石製品
- 2, 3 変形銅戈形石製品
- 4 有孔石製品



第6図 栗林式土器文化・社会の墓制

- 1 木棺墓
- 2 土坑墓
- 3 礫床木棺墓

表2 墓制の地域差

| 遺跡名 | | 木棺墓 | 土坑墓 | 礫床墓 |
|-----|-------|-----|-----|-----|
| 飯山 | 小泉 | 131 | 10 | |
| 飯山 | 上野 | 70 | 7 | 2 |
| 中野 | 柳沢 | | | 20 |
| 中野 | 南大原 | 2 | | 3 |
| 中野 | 栗林 | 12 | 8 | 20 |
| 長野 | 徳間本堂原 | | | 4 |
| 長野 | 檀田 | | 2 | 7 |
| 長野 | 松原 | 1 | 1 | 19 |

出典：

- 図3 中野市教育委員会 1992『栗林IX 緊急発掘調査報告書』 図2をもとに作成
- 図4 中野市教育委員会 1992『栗林IX 緊急発掘調査報告書』 図24をもとに作成
- 図5-1 馬場伸一郎 2008「武器形石製品と弥生中期栗林文化」川崎保（編）『赤い土器のクニの考古学』雄山閣、図4-3転載
- 図5-2 上掲書、図5-6
- 図5-3 上掲書、図5-7
- 図5-4 上掲書、図6-20
- 図6-1 中野市教育委員会 2001『栗林遺跡発掘調査報告書』、図24
- 図6-2 上掲書、図26
- 図6-3 上掲書、図21